

# 岩村全地区に水道を

## 約30人が出席して市政こん談会 岩村

公民館事業の一環として市政こん談会を——一月二十六日の後免町に続いて、岩村地区でも二月十三日、地区公民館に地元住民約三十人が出席して「市政こん談会」が開かれ、小笠原市長や関係課長らと地区のかかえる問題について三時間あまり熱心な話し合いが行われました。



当日は、北岡益貴公民館があいさつ、執行部の紹介を行ったあと、小笠原市長が「こうして各地区に出向き、ひざを交えてみなさんと話し合うことは、我々執行部も大歓迎です。行政についてみなさんの意見をどしどし聞かせてください。」とあいさつし、討議に入りました。

主な質問、回答は……  
問い・岩村地区ではここ数年、地下水の減少が問題となっている。三年ぐらいう前に「地区全域に水道を」と市に要望してあるが、実現の見通しはどうか。  
答え 最近特に地下水の水位が低下してきたというのは、この岩村

地区だけではなく、市内でも南の田村や物部をはじめ、大森の城陸稲吉、篠原まで及んでいる。  
現在、市内に十四の水源地（いずれも地下水）があるが、全部枯渇寸前の状態である。岩村地区内に新たに水源地を作るのは、検討したがむづかしく、他の水源地から回すとすると、岩村保育所まできている目黒簡易水道では水源地の能力から全地区には無理、また野田地区まで給水している植田の水源地から回すとすると、給水管が小さく、新たに全部を大きな管にしなくてはならない。  
「ご存知のように、水道会計は独立採算制の会計であり、利用している各家庭の水道料金で賄われている。新しい事業をするとなると借金（起債）にたよらなければならぬ。現在、その借金は十億円を超えている。また、久礼用や奈路などで早急に取組まなければならぬものがあり、計画はすでに五十八年度までいっばいの状態。岩村地区実施は早くても五十九年以降になる。  
問い・土佐山田町の岩村地区に水道をひく計画があるという話を聞

### 市民憲章

わたしたちの郷土南国市は、土佐文化の発祥地、そしてまた、清新な生産都市であります。この誇りのうえにたち、さらに一大飛躍発展をとげるために、次の信条を守りましょう。

- ☆文化財と自然を保護し、新しい文化のかおり高い歴史のまちを築きましょう。
- ☆青い空、清い海、緑の山野、そして豊かな太陽のふりそそぐ、健康で明るいまちにいたしましょう。
- ☆川は市民の顔、清くて豊かな流れをつくりましょう。
- ☆第三日曜日は家庭の日、全戸笑顔で子供を守り育てましょう。
- ☆老人は市民の宝、小さい親切運動と福祉の豊かなまちにいたしましょう。
- ☆三悪を追放し、交通事故のない住みよいまちにいたしましょう。

ざしてその足場を固めるために、長期計画（さしあたり五年ぐら）をたて取組んでいきたい。  
問い・先日、香南中学校で暴力事件が起きたが、健全な子どもを育てていくため、今後どんなに教育の問題に取組んでいくのか。  
答え・暴力事件が起きたことは残念なことだが、これは香南中学校だけの問題ではない。

親は子どもに孝行するが、子どもに親に孝行する気がない。こんな育て方をしているのではないかと。まず、親を尊敬するような子どもに育てていかなければならないと思う。我々ももっと深くこの問題を考えていかなければならない。  
問い・南国市にもぜひ普通高校を作ってほしい。  
答え・市長に着任当初から望んでいる懸案事項。県教育委員会に普通高校建設の計画があり、「ぜひ南国市に」と力を入れて取組んでおり、現在、市の西部に二、三カ所候補地をたて話し合いを進めている。

このほか、「佛川を早期に改修してほしい」、「地元が負担している市道の道敷料は市で負担しても

らえないか」などの要望も出されましたが、最後に、「この岩村地区は土佐山田町と南国市の二つに分かれた。土佐山田町では敬老会の場合、一人あたり千円を支給、また老人いこい所もできたそうだが、一方、南国市の場合は地区に二万円、会場はこの公民館を利用しているが炊事場はすきま風……山田と南国とは大きな差があるよう

だが、前回の市政こん談会（五十二年十月）では、「岩」を「岩村」に統一してほしいという要望が実現したが、今回の会ではいろいろ要望しても財政的に無理と思うので、この炊事場の修繕という「小さな願い」だけでも、ぜひ早急に実現してほしい」という切実な要望が出され、会を終りました。

# 比江山造成工事費増額を可決

## 校内暴力「再発防止に万全の努力を」臨時議会

比江山木材団地は、市が造成して（四億二千円）、二月十五日引渡すことになっていましたが、設計変更のために、契約金額を四億五千八百八十三万一千円に変更する議案が十二月議会に出されて、継続審査になっていました。  
二月十日の臨時議会は、この件だけが審議されました。

開会に先だって、門田教育長が特に発言、一月二十九日に起きた「香南中学校内暴力事件」で指導、監督の不行届により、関係者や市民のみなさんに迷惑をおかけし、深くおわびします。事件発生後、教育委員会、校長会をもって、原

因などを追求して再発防止に万全の努力を重ねてきましたと報告、陳謝しました。  
続いて、吉本助役が「比江山地区の収支計算書提出は、三月議会でのいとの理解を促しているため、今議会は用意していません。市財政負担をなるべく軽くする方針で作成して、三月議会に提出します」と釈明しました。  
本会議に入り、高島総務常任委員長が、同委員会の経過、結果を「契約変更額三千八百八十三万一千円の財源内訳は、県から二千四百万円、木材団地から一千五百五十万円、市が三百三十三万一千円と

するこでやむを得ないという結論で、委員のなかには、市の負担はいけなよとの意見があった」と報告、委員長への質問では——  
「初めの収支計画から大きく後退している。市負担をどうしてしなければならぬのか。その財源はどこからなのか。歳入欠陥になるが……委員会では、しっかりと資料をもとに審査しないと安易な妥協や結果を生むことになる。①仮契約書②仮契約書に関わる確認書③本契約書の日付がいずれも五十五年三月三十一日となっているが、内容はそれぞれ異なっている。などで紛糾、休会となり、総務常任委員会、議会運営委員会を開き、異例の会期延長（二月二十日まで）を決めました。  
二十日の本会議では、冒頭に市長が「執行部の不手際によって審議が中断、会期延長を招いたこと

をおわびします。すでに議決された内容と異なる事項で本契約を結んだことは、明らかに手落ちで、心から陳謝申し上げます。なお、本契約書の議決は、三月議会でお願いたします」と陳謝しました。  
討論では、反対討論が——  
①九億円で土地を売っても、周辺の諸整備などの負担を差引くと、六億余円しか残らない。  
当然木材団地が負担すべき三百三十三万一千円を市負担とするのは、財政再建に逆行するもの。  
②十二月議会で、四億二千円で議決している。いまの計画が実行されると、歳入欠陥が生じる。  
③議決を得ない本契約書はおかしい。——などがあげられたものの、総務常任委員会の結論が支持され、団地造成費は四億五千八百八十三万一千円、うち市負担三百三十三万一千円で決着しました。

